

県総合畜産だより

肥育経営も技術革新の時代だ！！

つねに新しい技術経営を身につけ生産性を向上しましょう！！

どうして肉牛完全配合飼料が好まれるか？内容が充実し、時代の要求に適っている。

“肉牛用完全配合飼料”は一步進んだニュータイプの飼料です

この配合飼料は総合畜産が深い経験と優れた技術による独創的な新しい理論とアイデアを詰めた専門配合飼料です。

これまでの肥育用飼料は、粗蛋白質含有量(C.P.)は20%~16%と高蛋白質飼料の傾向があり、その上TDNとの均衡も悪く、したがって、生理的にも経済的にも多くの問題があった。

最近、米国においても、肥育飼料の適正な配合につき、その基準である肉牛の飼養標準に併せて、CDPとTDNの必要量については活発に研究が続けられている。

これに関して Burroughs らは、若令肥育の後半に当る部分の肥育について、彼の行なった多くの試験結果をとりまとめ、種々の項目に対する最適粗蛋白質含有量を次の表のごとく示している。

※“肉牛用完全配合飼料”は粗蛋白質C.P.の含量が合理的である。

増体は9.5%程度がよいが、枝肉に価値は13.5%でもっともよい。この場合は、エネルギーを考慮していないが、イリノイ大学の Zimmerman 等は、C.P.とTDNのそれぞれの含量よりも両者の比が増体に大きく影響するとし、C.P.:TDNは、1:5.9がよかったと報告している。

※“肉牛用完全配合飼料”は、C.P.:TDNの比が合理的である。

肉牛用完全配合飼料の成分

粗蛋白質	CP	12.6%
可消化性粗蛋白質	DCP	10.5%
可消化養分総量	TDN	73.5%

CP 12.6 : TDN 73.5 = 1 : 5.84

肉牛用完全配合飼料は 5.9

この配合飼料は、栄養のバランスと、肥育牛の生理機能を高めるように特別に色々の面を工夫をしていますので、牛の嗜好と消化が良いので肥育末期まで利用出来るなど他社製品にみられない特徴をもった経済的飼料です。

肉牛の諸項目に対する最適粗蛋白質含量 (Burroughs)

増体量	9.5%
飼料効率	9.5%
枝肉歩留	13.5%
枝肉等級	13.5%

1頭当りの収益 9.5%~13.5%

肉牛用完全配合飼料 12.6%



肉牛用完全配合飼料の効果は素晴らしい

岡山畜産便り 1965.02

- 嗜好がよいこと。
- 価格が安いこと。
- 肥育末期まで利用できること。
- 増体がよく背肉が早くつくこと。
- 排糞の状態がよいこと。
- 枝肉の商品価値がよいこと。

—この肉牛用完全配合飼料の真価は、すぐ分かる。—

第3回 岡山県枝肉共進会 No.45号最優秀賞（首席）ロース断面

